

リニア中央新幹線計画の中止を求める決議

2011年5月、国土交通省中央新幹線小委員会はリニア中央新幹線計画について最終答申をまとめGOサインを出した。これまで沿線自治体をはじめとする関係団体や住民のバラ色の未来を約束したかのような夢想は3月の原発震災に至っても、まったく目覚めることなく、その結論を出してしまったのである。

リニアの電力消費量の膨大さは委員会においてその数値さえ示されないまま進行し、初めてでてきた数値はたったの2行でしかも瞬間最大電力量を示さないトリックの数値だった。原発はもう動かさない時代になり、明らかにこれまでのように便利さやスピード追求のために電力を使いたいだけ使えることは出来なくなったにもかかわらず、リニア推進派だけははまだバブルの時代に生き続けている。また車内外の電磁波の数値も最後まで示されず、したがって、乗客や沿線住民の健康リスクについて議論は一切されなかったことになる。財政についてみても JR 東海にはまだ3兆円余りの借金がある。当事者である JR 東海が、建設費のためにさらに5兆円の長期負債をするという。これでは人口や利用客の減少による破綻が目に見えている。

そして、懸念されるのが自然環境破壊。ほぼ決定したと言える南アルプスをトンネルで貫くルートは自然環境や生態系が豊かなところである。そこに20kmものトンネルを掘れば、大きな自然破壊はまぬがれない。実験線トンネル工事はすでに水源の枯渇を引き起こしている。

また南アルプスには中央構造線や糸魚川静岡構造線などの大断層があり、さらに長野県側でトンネル試掘をした大鹿村一帯の地質は、岩石の崩壊を起こしやすく今でも地すべりがある場所である。計画ではリニアのトンネルはこうした場所も通る予定になっている。

さらに技術上の欠陥も多々ある。地震の時など、ガイドウェイに破損、故障があった場合、簡単に修理ができず、復旧に長期間を要する。複数の列車が止まった場合は、車両の牽引さえできないことになること等々指摘されている。

このリニア中央新幹線計画を遂行しようとする JR 東海が、諸費用や環境などすべての面にわたって情報を一切公開しないで推進していることは、鉄道の公益性という点に鑑みても許されることではない。

さらに沿線の自治体の長は節電をとえながら、一方で電力浪費のリニアを夢のものとあるとして推進している。この矛盾する二枚舌を私たちは認めることはできない。

原発の電力がなければ動かせず、一方で原発必要の理由となるような需要の拡大にあえて寄与させようとして進められるリニア計画について私たちは建設中止以外の選択肢はないことをここに宣言し決議する。

2011年9月10日

自然と環境を守る全国交流会
(提案団体：リニア・市民ネット)